



3年学年だより

発行日：令和4年2月28日（月）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：遠藤 広樹 NO. 10

令和3年度の有終の美を求めて

今月は南高校附属中学校 11 期生適性検査、南高校 69 期生高校入試が実施されました。南高校および附属中学校にも新しい春の足音が聞こえてきます。令和3年度の附属中学校の生活も残りひと月となりました。今年度の総仕上げをしている各学年の様子をお伝えします。

保護者の皆さま、1年間さまざまな場面でお力添えいただきありがとうございました。令和3年度も残りひと月、よろしく願いいたします。

自分の足で踏み出そう！

3年学年主任 蛭田 真生

中学校生活も終盤を迎え、日々のいろいろな場面で8期生の良さが表れています。朝、クラスから響く笑い声、廊下ですれ違うときの元気なあいさつと笑顔、授業中に互いに教え合ったり、授業後も熱心に議論したりする姿、休み時間の和気あいあいとした雰囲気、などなど……。コロナ禍で続く閉塞感を吹き飛ばすような、みんなの明るくひたむきな姿に、私も毎日たくさんの元気をもらっています。

4月からはよいよ高校生ですね。新しい仲間、新しい先生、たくさんの「新しいこと」が待っていることでしょう。環境が変わるとき、それは自分自身が成長する大きなチャンスです！みんなには、ぜひ、新しいことがやってくるのを待つのではなく、自ら飛び込んでいく！という気持ちで行動して行ってほしいと思っています。自分の足で登ってみなければ、見ることのできない景色があります。“失敗”もまた素晴らしい経験になるでしょう。高校進学まであと1か月。飛躍のための助走期間として、いますべきことに全力で取り組んでいきましょう！

温かなつながりの中で

2年学年主任 福田 由美

「ありがとうございます」その一瞬のたたずまいの中に、9期生の成長を感じる事がたびたびあります。温かな笑顔に、「こちらこそありがとう」という温かな気持ちになります。追いかけてきた先輩たちから学んだのでしょうか。または頼ってくれる後輩の存在がきっかけでしょうか。これまでの無邪気な明るさだけでなく、「思いを言葉に、行動に」という9期生が自分たちで立てた目標の姿に一歩ずつ近づいているように思います。今年も生活の中に様々な制限がありましたが、その中でも友だちと関われるチャンスを最大限に生かして、ともに成長してきました。

そんな中で、「うまくいかないなあ」と感じる時もあったかもしれません。さなぎの時ですね。何も動いていないように見えるさなぎの中は、大きく変化しているそうです。うまくいかないと感じる時も、次に進むために必要な準備の段階なのです。さなぎから孵化する時も誰かが必ず見守っていますので安心してください。温かなつながりの中で、9期生が心優しく、思いやり深く成長している様子を心から嬉しく思います。

感謝の気持ちを大切に

1年学年主任 朝比奈 康江

北京オリンピックが閉幕しました。令和3年度は、夏の東京オリンピックに続き、冬季オリンピックも行われた異例の年となりました。今回も、観ている私たちに勇気を与える多くの感動的なドラマが生まれました。アスリートの皆さんが、どのような場面でも最後まで諦めず、常に自分を支えてくれた人々に感謝をし、競い合った相手をリスペクトする姿勢が印象に残っています。

今年度、みなさんは新しい環境で多くの体験をしました。楽しかったこと、達成感を得られたことはもちろんあったと思いますが、一方で思い通りにいかなかったこともあったのではないのでしょうか。でも、あとから振り返ったとき、あの出来事もこの経験もすべてが自分の成長の糧となっていることに気づくでしょう。そしてそこには常に誰かの支えがあったはずです。これからも、日常のささいなことの中に、感謝と他の人を尊重する気持ちを持ち続けて、すこやかに成長して行ってほしいと思います。

2022.02.22 生徒会企画

「スクールワイドフェス」が開催されました!

2月22日(火)7校時、中学生徒会本部が中心となって企画した全校交流イベント「スクールワイドフェス」が開催されました。企画の目的は、学年間の壁を越え、全校で楽しく交流すること。そして、生徒一人一人が生徒会員としての自覚をもち、学校の課題について考える機会をもつこと。コロナ禍での開催ということもあり、Google ミートを活用して他学年とオンライン交流するというこれまでにない企画となりました。

当日のファシリテーターは、3年生徒会本部役員の■■■■さん、■■■■さん、■■■■さん、■■■■さんがそれぞれ担当。各クラスの学級委員と連携しながら、お題に合わせて演技をする「TPO ゲーム」や、登下校のマナーをテーマにした「ディベート」を行い、有意義な時間となりました。



イベントの終了後、3年生徒会長の■■■■さんは、「始まる前はみんなが楽しんでくれるかすごく不安だったが、実際にやってみて、みんなが協力してイベントを盛り上げてくれてとても嬉しかった。企画を一からつくりあげるのは本当に大変だったが、イベントが無事に終わり、やりきったという達成感がある。」と語ってくれました。毎日遅い時間まで残ってイベントの準備にあたった生徒会本部役員の皆さん、それを精一杯サポートした学級委員の皆さん、そしてイベントを盛り上げた全校生徒の皆さんに拍手を送りたいと思います。

2022.02.26 土曜 EGG

国際理解講座 チェンジ・メーカーになろう!

2月26日の土曜 EGG では、横浜市立大学より上村雄彦教授をお招きし、「チェンジ・メーカーになろう!～人類の生存危機を回避するために～」というテーマでご講演いただきました。いま私たちが抱えている地球規模の問題をどのように解決していけばいいのか、一人一人が考えるきっかけとなりました。生徒の振り返りの一部を紹介します。



- 具体的な例や関西弁で分かりやすく楽しく聞けた。特に2050年に3℃上昇してしまったらジ・エンドみたいな話が想像できて怖くなった。飢餓などで6秒に一人亡くなっていたり、1分間でサッカーコート1面分森林伐採されていたりという事実があるのを全く知らなくて私はのんきだと思った。問題の根幹を見つけ、根本から解決することは確かに一番必要だと思った。3.5%のうちの一人になりたい。(1組女子)
- 当たり前だと思っていた資本主義の裏には、個人が豊かになるために地球規模の問題を起こしている富裕層の人が多くいたり、主権国家体制では国の権利を大切にする一方、地球益よりも国益を大事にするため課題が解決できないというのを知って、自分の中の常識が少し覆された感じがした。自分も解決したり変えていきたいことがあったら、問題の根幹を見つけ、根本から解決していくチェンジ・メーカーになって行動していきたいと思った。(2組男子)
- 特に驚いたのは、お金をたくさん持っている企業がタックス・ヘイブンを利用して納税を回避しているということだ。こうした企業のお金があれば、途上国の支援ができると思った。タックス・ヘイブンをなくすことで、大きく世界は変わっていくのではないかと思った。(3組男子)
- 「世界政府をつくる」という案は初めて聴いたが、しくみの一つ一つに納得した。政府のしくみをどの国をモデルにつくるのか、新しくつくり出すのかによって加入する国も異なるのではないか。また、世界政府のトップはどうなるのかも気になった。日本に“総理大臣”、アメリカに“大統領”がいるように、世界政府にもトップをおくべきだろうか。しかし、トップの人の国籍で問題が起きそうな気がする。私はまだ、このような問題への理解も低いので、様々な文献を読んだりしてみたいと思う。(4組女子)